



プレス資料

2008年2月18日現在

夕張国際学生映画祭2008実行委員会

<http://www.yubarifilm.com/2008/>

[企画概要]

[開催主旨]

「夕張の映画の火を消さないで！」を合言葉に、夕張の発展の助力となるという目標の下、1999年のゆうばり国際ファンタスティック映画祭の10周年特別企画で生まれました、JCF学生映画祭の関係者（JCF：日本サークル連盟）と学生事務局により立ち上がりました「夕張国際学生映画祭 2007」は、皆様のご協力の下、昨年2月25日（日）から28日（水）までの期間、ホテルシュエパロを会場に無事開催することができました。

学生の若き力がひとつになり、少しは夕張の雪を溶かすことが出来たのではと思いますが、まだまだこの試みは始まったばかりでございます。

そこでこの度、一過性のイベントに終わらせず、「通り過ぎない映画祭」として、この夕張の地で今後も継続的に学生映画祭を開催することを決定いたしました。当初はNPO法人ゆうばりファンタ様が主催される「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」との共催を念願し、同事務局に申し入れを行っておりましたが、残念ながら受け入れられず、叶いませんでした。よって私達は2008年度も単独での開催する運びとなりました。

夕張国際学生映画祭 2008の事務局には、昨年参加した学生はもちろん、夕張高校出身の札幌在住の学生達も札幌事務局のメンバーとして参加を表明してくれております。

また、本年開催時に学生アイデアコンテストで提唱された「YUBARIWOOD 構想」を具現化すべく、新たにアニメ作品や観光PR部門を対象にした「YUBARIWOOD FILM AWARD 2008」を開催し、一般からの作品も募集いたします。特に全国の観光CMやVP（ビデオ）を対象にした観光PR部門、学校の入試広報ビデオ等を対象にした学校PR部門をこの夕張で開催することにより、地方自治体や観光協会、学校法人でPR業務に従事される方の参考になるべき情報を全国に向けて発信いたします。

以下に、私共の計画をご報告させていただきますとともに、本件につきまして皆様方のご協力を是非賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

[実施内容]

名 称：夕張国際学生映画祭 2008

主 催：夕張国際学生映画祭 2008 実行委員会

共 催：NPO 法人ゆうばり観光協会

後 援：北海道、北海道教育委員会、北海道経済連合会、夕張市、夕張市教育委員会、北海道観光連盟、北海学園大学、北海道新聞、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、北海道日刊スポーツ新聞社、道新スポーツ、産

経新聞社札幌支局、北海道放送、札幌テレビ放送、北海道文化放送、テレビ北海道、AIR-G'エフエム北海道、FM ノースウェーブ、エフエム東京、株式会社ジャパネフエムネットワーク、日本経済新聞社、経済産業省、札幌デジタル専門学校、中華人民共和国駐札幌総領事館、フランス大使館文化部、財団法人日本環境協会

協力：北海道夕張高校、株式会社 24-7、有限会社 NEW WAVE、株式会社 GETTI、原 浩之 (PHuUK)、横濱学生映画祭、東京学生映画祭、第 10 回京都国際学生映画祭実行委員会、トゥピニキーン・エンターテイメント (株)

開催期間：2008年2月22日(金)～24日(日)

開催場所：ゆうばりホテルシューパーロ

〒068-0400 北海道夕張市本町2丁目19

Tel:0123-52-2400 Fax:0123-52-2401

URL:<http://yubari-resort.com/shuparo/>

上映作品：約40本

公式サイト：<http://www.yubarifilm.com/2008/>

[行事内容]

行事内容

1) 国際学生映画 AWARD

世界中から集まった学生映画の秀作から、世界一を決定

2) 国内学生映画 AWARD

日本国内から集まった学生映画の秀作から、世界一を決定

3) 学生ショートフィルム AWARD

「環境」をテーマにした15分以内のショートムービーを募集

4) 学生 PHOTO AWARD

「環境」をテーマに、10枚以内のデジタル写真で表現した作品を募集

[上映作品・企画内容詳細]

(順不同)

★招待作品部門

『shall we ダンス?』(約140分)

監督、脚本：周防正行

出演：役所広司、草刈民代、竹中直人

配給：角川映画

公開年度：1996年

監督・原案・脚本は「シコふんじやった。」の周防正行。撮影は「哭きの竜」の栢野直樹。音楽は、監督の従兄弟で「お墓と離婚」の周防義和が担当している。主演は「KAMIKAZE TAXI」の役所広司と、日本バレエ界を代表するプリマドンナ・草刈民代。96年度キネマ旬報ベストテン第1位、同読者選出ベストテン第1位のほか、主演男優賞(役所)、助演女優賞(草刈)、新人女優賞(草刈)、脚本賞(周防)を獲得。他の主要映画賞でも各賞を総ナメにする圧倒的な強さをみせた。

[あらすじ] ひよんなことから始めた社交ダンスを通して、平凡なサラリーマンが人生を見つめ直す姿を描いたハートフル・コメディ。真面目でこれといった趣味も持たないサラリーマンの杉山正平は、ある日の会社の帰り、電車の中から見えるダンス教室の窓に、物憂げに佇むひとりの女性を見つけた。その美しい姿に目を奪われた彼は…

『ガメラ2 レギオン襲来』(約100分)

監督：金子修介

脚本：伊藤和典

出演：永島敏行、水野美紀、石橋保、吹越満

配給：東宝

公開年度：1996年

おなじみ大怪獣ガメラと、宇宙からの異生物レギオンとの壮絶な戦いを描いたモンスター・パニック・ムービーの復活シリーズ第2弾。監督は前作「ガメラ 大怪獣空中決戦」を手がけ好評を博した金子修介。脚本も前作と同じく伊藤和典が担当し、撮影の戸澤潤一、特技監督の樋口真嗣など前作の主要スタッフが再び顔を揃えた。主演は「大失恋。」の水野美紀と「GONIN2」の永島敏行、「LUNATIC」の吹越満。また前作でデビューした藤谷文子が同じ浅黄役で再び出演するほか、長谷川初範、螢雪次朗、渡辺裕之らが前作と同じ役どころで顔を見せている。

[あらすじ] 冬のある日、北海道・支笏湖近辺に巨大な隕石が落下した。すぐさま渡良瀬二佐を中心とした自衛隊が現場に急行したが、巨大なクレーターが発見されたのみで、不思議なことに隕石自体は影も形も見つからなかった。隕石の落下を目撃した札幌青少年科学館の職員・穂波とNNT職員の帯津は、それ以来、支笏湖周辺から札幌にかけて巨大なオーロラの発生や光ファイバー・ケーブルの消失といった謎の現象が起きていることに興味を持ち、調査を始めていた。そんなころ…

『デス・プルーフ in グラインドハウス』(約113分)

監督・製作・脚本・撮影：クエンティン・タランティーノ

出演：カート・ラッセル、ゾーイ・ベル、ロザリオ・ドーソン、ヴァネッサ・フェル
リト、シドニー・タミーア・ポワチエ

配給：ブロードメディア・スタジオ株式会社

公開年度：2007年

60～70年代に隆盛を極めたインディーズ系の低予算映画＝グラインドハウス映画の体験を再現すべく、タランティーノが取り組んだ企画「グラインドハウス」。殺人鬼 VS 女の子たちという構図で、グラインドハウス映画に思いっきりオマージュを捧げたスラッシャー映画を作り上げた。全編にちりばめられたガールズトークの数々は、リアルで、開放的で、魅力的。彼女たちに対する殺人鬼役のカート・ラッセルも怪演で物語を盛り上げる。他にも後半の怒涛かつ爆笑の展開など見どころが満載。タランティーノ流のエネルギッシュなガールズムービーに仕上がっている。

[あらすじ] テキサスの田舎町。人気DJのジャングル・ジュリアは女友達と共にお気に入りのバーにくり出した。しかし、そこに不気味なシボレーを乗り回す男、スタントマン・マイクがやってくる。ジュリアたちはバーで会話をするうちに、彼への警戒心を緩めていくが…。その14ヶ月後、テネシーのとある町。映画撮影に携わっているキム、ゾーイたちは撮影の合間をぬって車の試乗をすることに。しかしそんな彼女たちにマイクが目をつけ…。

★インディーズ SPECIAL 作品上映

『或る探偵の証明』(約70分)

監督：山口雅和

出演：JUN、あだち理絵子、安藤匡史、鈴木ただし、葛原瑞穂

協賛：セイコーエプソン株式会社

公開年度：2007年

大阪の中崎町を中心にロケ地の全てが大阪市内、また全てのスタッフが関西に縁のある人間で作られた為、“大阪発信の映画”として、関西各誌でも取り上げられた。

[あらすじ] 舞台は大阪の町中崎町。そこにある白男探偵事務所は、警察でも解決できないゴタゴタを専門に扱う探偵事務所。事務所にいるのは探偵・直江白男と、白男が身元引受人として預かったエリ。白男は、いつの間にか助手のように働くようになったエリと二人三脚で事件を解決している。そんな二人の奇妙な生活が続く中ある日、元刑事だという男が依頼にやってくるのだが……。

『キョクドロボウ』(約90分)

監督：山岸謙太郎、石田肇

出演：正木蒼二、木村有、森川椋可、三浦知之、小山剛志

公開年度：2007年

自主制作映画では現実的な世界を扱い、文学性、メッセージ性は高いもののエンターテイ

メント性が低い作品が多く見受けられる。しかし、この作品は「自主制作映画なので低予算で仕上げなければならない」と自分たちであらかじめ囲いを作りその中で企画されていたような自主制作映画とは違い「作りたいものを先に考え、与えられた予算や時間という囲いの中でどこまで実現可能かチャレンジしてゆく」というスタンスによって作られている。

[あらすじ] 近未来。医療技術の発達により人類の寿命はさらに延び続けていたが、その一方でアルツハイマーをはじめとする神経変性疾患の増加が地球規模で問題となっていた。それら脳障害問題に対応すべく、脳医療企業「レムコーポレーション」は、人間の記憶をデータ化し、保存する技術を発表した。その技術の基幹となるのは、リーサ・グレッツキー博士の記憶データ。しかし、彼女は謎の自殺を遂げていた。多額の懸賞金が掛かった彼女の記憶データを盗もうとする二人の男。タロウとスラッシュ。果たして彼女の記憶データを盗み出すことが出来るのか。リーサ・グレッツキー博士はなぜ死ななければならなかったのか……。そして、記憶保存社会の未来とは……

『爆竹』(約 30 分)

監督：伍藤征彦

公開年度：2007 年

旧正月を間近に控えた、とある農村。兄（7才）は子供達を率いて爆竹遊びをしていた。臆病なくせにしつこく付きまとう弟が次第に煩わしくなり、兄はふとした気持ちで、点火した爆竹を弟に投げつけてしまう。きれいな弧を描いて舞う爆竹は、弟の目の前で、乾いた空気を引き裂くように破裂する…。ちょうど十二年後の北京。郊外の新興団地で出稼ぎ警備員をする兄のもとへ、耳の聞こえない弟が訪ねて来る。何年も顔を合わせていなかった弟を前に、どう接していいのかわからない兄。来意を探ろうとしても、弟から返ってくるのは無垢な表情だけだ。旧正月に向け鳴り続ける花火の音に囲まれ、兄の中で、眠っていたはずの罪悪感が沸き起こる。翌朝、弟が失踪する。小さい頃からずっと兄の後ろ姿を追いかけてきた弟は、兄のする警備員に憧れ、自分もなろうと街の中を探し回る。だが耳の聞こえない少年を雇おうとするものはおらず、弟はひとり雑踏の中路頭に迷う。同じく大晦日の乾いた街の中、当て所もなく弟を探し続ける兄の心にも、じりじりと火花が駆け始め、ふたりは破裂しそうになっていく…。

★国内学生映画AWARD（50音順）

以下の 20 作品の中より 8 本の作品が最終ノミネート作品に選出されます。

『elemental』(約 45 分)

監督：原明子 Akiko Hara

境遇の違う 3 人が出会う。互いが互いの距離感を測っている。そのなかで一惹かれるもの・反発するもの一要素が距離感に動きをもたらす。曖昧で脆弱な思い込みの世界にいた

男は、2人との距離感＝差異のうちに、自分が目を背けていたものへと焦点をあわせてゆく。

『お袋さん』(約 23 分)

監督：山本聖 Satoshi Yamamoto

ガラクタ収集の趣味を持つ女子高生ミズキはある日、不法投棄が多いと噂のある裏山の廃墟へと出かけた。ミズキはそこで生き物のように這い回る不気味な布袋に出会う。その布袋をペットのようにかわいがるミズキ。その頃近隣で遺体を袋につめて捨てるという連続誘拐殺人事件が発生。ミズキは事件を気にもとめず布袋に会いに廃墟にやってくるが、そこでミズキは恐ろしい出来事に遭遇してしまうというミステリー。

『母いだした日』(約 31 分)

監督：島里佳子 Rikako Shima

ごく普通の家族のお母さんについての物語。息子が母親の家出をきっかけに母親の存在について改めて考える。子供は母親を知っているのか

『蛾意虫』(約 51 分)

監督：瀬川浩志 Kouji Segawa

意中の女の子と念願のデートが決まった当日、大学生の藤見創太は道で「あるモノ」を拾う。それ以来、創太は何者かに見つめられているかのような奇妙な感覚に襲われ始める。次第に実体をとめない迫ってくる「その存在」により日常を侵食されていく創太。そしてデートの日がやってきた・・・。

『家族のいる景色』(約 51 分)

監督：川部良太 Ryouta Kawabe

ある日、母は近所の公園まで絵を描きに行き、そのまま行方がわからなくなった。「家族の一員が、ある日突然いなくなること」それは誰しもが想像しうる悲しみの家族の景色である。この映画では、「母親の失踪」という架空の出来事を実際の家族関係の中に持ち込み、自らの生活をフィクション化することで、映像の現実感とは、あるいは家族の現実感とは何かと問うことを試みた。

『声声』(約 43 分)

監督：川邊崇広 Takahiro Kawabe

声を失い過去を捨て去った男と家庭が崩壊し孤独になった少女が出会い共鳴してゆく。

『再見』(約 18 分)

監督：近常奈央 Nao Chikatune

出会いと言葉と花の色。

『サンドイッチマン』(約 34 分)

監督：清水麻美 Mami Shimizu

マレーシアから来たグエン・ヴァン・キエットはサンドイッチマンのバイトをしているが、失敗ばかりの毎日だった。しかし、落ち込んでいたグエンの前に女子高生のサユリが現れる。誰もいないお台場の街に 2 人は“におい”をつける旅に出た。

『少年少女』(約 37 分)

監督：小栗はるひ Haruhi Oguri

小さな子供が、大人にもまれ、生きていく姿を撮りたいと思った。今まで観た事のないような作品を作りたいと！！とっていた。

『人馬一体』(約 27 分)

監督：島野貴之 Takayuki Shimano

北海道ばんえい競馬。農耕馬の血を引く輓馬が鉄ソリを引いて争う世界で唯一の競馬です。その舞台でチャンピオンを目指すミサルテンリュウを追いました。存続論争で揺れ動く最中、果たして砂地の頂に立てるのか。期待と不安が入り混じる、北海道の馬文化を描いたドキュメンタリー作品です。

『strawberry man』(約 21 分)

監督：加納隼 Hayato Kanou

大学受験を目前に控えた優等生の男。苺にしか興味のない女。男は女に恋をする。しかし女は苺に恋をしている。ある日男は決断する・・・

『すみれ人形』(約 63 分)

監督：金子雅和 Masakazu Kaneko

兄・文月、妹・すみれ、幼馴染みの螢介は猟奇事件に巻き込まれ訣別する。五年後、寂れた見世物小屋の舞台に立つ文月。彼が演じるのは、もの哀しくも滑稽な腹話術人形劇。

『TOKYO 2038』(約 120 分)

監督：針谷大吾 Daigo Hariya

2038 年東京。怪しい治検を引き受けた主人公は不可解な夢を見るうちに、ある事件に巻き込まれていく。2 つの平行世界に跨って展開する闘いと復讐劇を描いた SF アクション映画。第 20 回早稲田映画まつり安藤紘平賞受賞作品。

『true tune』(約 32 分)

監督：初野一英 Kazuhide Hatuno

ある日突然味覚障害になった女子高生のアイ。アイは友人のトモコとユキにもそれを打ち明けることが出来ずに毎日を過ごしていた。ある日の放課後、アイはクラスメイトのサチに飴玉をもらう。アイが舐めると、その飴玉はとても甘かった。

『七色ランドリー』(約 15 分)

監督：瀬瀬卓良 Takuyoshi Kouketu

雨の日のコインランドリーに入ってきたびしょ濡れのミキ。そこに居合わせたタオルとミキの出会いの物語。

『パンツの華』(約 21 分)

監督：小栗はるひ Haruhi Oguri

高校生になっても未だ“生理”が来ないミツキ。初潮を迎えた少女サチコ。思わぬ妊娠に戸惑うカナ。「何で女だけが毎月血を・・・？」

『Place』(約 20 分)

監督：國武俊文 Toshifumi Kunitake

人は、出会い、別れを経験し、孤独を知り大人へと成長していく。これは、人の孤独を描いた作品です。

『ぼっぼちゃん』(約 35 分)

監督：平井健志朗 Kenshirou Hirai

女子高生ぼっぼちゃんは、悩みごとがたくさん。世の中いろんな人がいる、それが楽しい！！

『ザ・リヴェンジャーズ～The Revengers～』(約 24 分)

監督：小田歩 Ayumu Oda

2061 年の近未来社会。少年タジオは得意のカンフーを使いながら、父親殺しの真犯人をつきとめる旅に出る。全編英語、オール・アメリカ・ロケを完行した異色作。「スパイダーマン」「マトリックス」のスタントマン達が全面協力して製作された本格的アクション学生映画！

『ワールドエンドガールフレンド』(約 19 分)

監督：斉藤遼介 Ryousuke Saitou

静かな放課後 誰もいない教室 目を閉じればいつだって 世界の終わりに続いていると

彼女はそう言った

★国際学生映画AWARD

『家』(約 25 分) 東京学生映画祭招待作品

監督：長崎愛 Ai Nagasaki

家族というものは、ひとつの「家」の中でそれぞれの距離感で互いを思いやりながら存在しているものである。この作品はある出来事を通して見えてくる、ひとつの「家」をゆっくりと描いた作品である。

『少年と町』(約 10 分) 京都国際学生映画祭招待作品

監督：小林達夫 Tatsuo Kobayashi

ここは工場のためにつくられた町。線路は毎朝一度工場への貨物列車が通るだけで、町の子どもたちは旧街道を越える長い道程を歩いて学校に通っている。セイタカアワダチソウの茂る河原。投棄された産業廃棄物。幼なじみの二人はそんな場所で出会う。

『HOLY NIGHT of the LIVING DEAD』(約 28 分) 横浜学生映画祭招待作品

監督：宮下大生 Daisei Miyashita

東京がゾンビによって壊滅状態になる中、逃げ遅れた人々の生への葛藤を描く。直哉と美雪は避難所へと逃げる途中、少女を救おうとした直哉がゾンビに殺される。美雪と、少女、小夜は生き残ることが出来るのか？スケールの大きな本格ゾンビ映画。

『寿司メン』(約 20 分) ブラジル代表作品

監督：ペドロ・イウアー Pedro Iuá

もつれた恋愛関係を直そうとする彼女と二人の彼氏の物語。アパートの一室で一風変わった話し合いが繰り返される。彼らは“客観的かつ理性的に”浮気と恋、そして三人の関係を話し合う。寿司と酒に囲まれた“冷静な”話し合いの行方は…？]

『MRA The Monster Removal Agency』(約 20 分) アメリカ代表作品

監督：ジョン・リパーティト John Ripartito

これはアメリカ人のポールが、毎日の仕事に飽き、会社をやめ、モンスター駆除組織に入る物語である。ポールははじめての使命で、この恐ろしい仕事が本当にいいものかどうか迷い始める。

『デイジー』(約 23 分) 中国代表作品

監督：陳立偉 Leeway Chen

東京出身、十歳の夏に渡米、アメリカで高校を卒業後一年間のバイト生活、19歳の春日本に戻って日本映画学校に通う (1999年～2002年) 日本映画学校卒業後、映画

を創造するにあたって自分に欠けているものを感じた、それは根っ子。(Roots)日本映画学校在学中に今まで触れなかった日本の文化に触れて、自分は日本生まれにもかかわらず、日本人ではないと改めて感じた。僕は根っ子は文字どおりその人の底辺にあるものと当時の自分は考え、ものの見方や判断、価値観を決定付ける大切な役割を果たすと思っていた、だからこそ自分にそれが欠けていると感じたとき、ものすごくあせりながらそれを探しに遙か遠い祖国にあたる中国へいった。最初の二年間は中国語を学んだ、中国語が下手だったので。2004年北京電影学院に入学、三年後、2007年北京電影学院を卒業。

★学生ショートフィルムAWARD (50音順)

『枯れ芝』(約5分)

監督：橋本まみ Mami Hashimoto

大学時代の同級生中原勝利の葬儀の帰り、涌井早紀と市ノ瀬徹は川の土手に立ち寄る。過去早紀と中原は恋人同士であったが3年前に別れていた。今でもなお中原に影響を受けていることに歯痒い思いを抱いている早紀に、徹は中原にもらったというものを差し出す。

『北の楽園』(約10分)

監督：川島千尋 Chihiro Kawashima

日本の普通の女の子が、カナダ北極圏イヌイットの村へ一人旅。そこは環境問題の一つである残留性有機汚染物質問題(POPs問題)の最も危ぶまれる地であった。美しい大自然と、そこに潜む目には見えないPOPs問題。そこで見たもの、感じたことを綴るドキュメンタリー。

『雲の人 雨の人』(約7分)

監督：上甲トモヨシ Tomoyoshi Jyokou

空の上には雲の人と雨の人がいます。雲の人はモクモクと、雨の人はチャプチャプと、そんな二人の出会いの物語です。

『原石』

監督：我妻さつき

環境保全とは、人間が行動しなければ実現しない。しかし今、地球環境について考えることができる人がどれほどいるであろう。

色のない町。そこに住み会社で研究をしていたニック博士は会社をクビにされる。そんな博士の前に、一人のカラフルな少年が現れる。名はミッシェル。ミッシェルの家に連れられ、ドアを開けるとそこには色のある部屋があった。そこで博士は自分自身の色を取り戻していく。色によって心が癒された博士はそのことに気づき、研究に没頭するのだった。そしてついに博士は色を作り出す機会を完成させる。博士はミッシェルを呼び、部屋に取

り付けられた色相環ダイヤルをまわす。

次の瞬間ミッシェルの目に映ったものはカラフルな部屋だった。二人はこれを町全体に広めていく。そして、だんだんと人々の心に色が戻っていく。そして元気な心を持った人々は今まで無視してきた環境について考えるようになった。

こうして一人の少年と博士の発明によって人々は心に色を取り戻し、町に緑が溢れた。

人間が変わらなくては何も始まらない。技術によって生活に色を取り入れ、人間の心を豊かにすることが環境保全への第一歩なのではないだろうか。

『CHAIN STEEL MANHOLE』（約 10 分）

監督：針谷大吾

ネタに困った自主映画監督と脚本家、なぜか手錠でつながれてしまっている男と女、下水道を逃げる侍と科学者、3組の話が交差する短編。

『低気圧ガール』（約 6 分）

監督：齋藤遼介

いつもと同じ日曜日。うん、悪くない。

『flower』（約 3 分）

監督：小山和希

幼い頃から人形アニメーションが大好きで、その中でも特に好きなチェコアニメの影響を受けながらも独自性を出すことを目標に制作しました。フル CG の CG らしい映像から、よりアナログな人形らしい映像へと近づけ、CG の弱点を隠し利点を活かせる映像へつなげていきたいです。暗い世界の中かわいらしくアニメーションする花の妖精たちのコントラストを楽しんでいただけたらと思います。

『祭仕』～まつりのつかい～

監督：谷口香織、久代小百合、増田晃子、松田侑子

パペットアニメによる和風ファンタジー。夏祭りの帰り、少女が古びた祠を発見するところから始まる。もののけの世界に飛び込んでしまった少女と、狐のお面をかぶった少年が織り成すハートフルファンタジー。

★夕張市立緑陽中学校監督作品

『メロンのなる頃に』（約 40 分）

監督：佐々木 亮介

この作品は、制作期間一月ぐらいの短い間でしたが、がんばって作りました。

夜に学校に集まって撮影したり、天気にも悩まされたりと、いろいろ苦労しましたが、大変

いい作品になったと思います。ラストまで息をつく暇もなく、物語は進みます。
気の弱い方は気をつけてください。

★北海道夕張高等学校監督作品

『エコ・ミュージアム・ゆうばり”－2008冬－』（約20分）

監督：小林和希

北海道の秀峰「夕張岳」（1,667.8m）は、花の名山として、多くの山岳家に親しまれています。北海道・夕張の四季の自然を、映像で表現してみたいと思います。「夕張問題」で、一般マスコミが、報道する映像を見て、市民の一人として、心を痛めています。夕張を愛するものとして、「美しい夕張の自然」を映像に残し、全国にアピールしていきたいと考えています。タイトルは、「夕張の自然と人間の共生」という意味を込め、環境問題とこれからの夕張再生を探っていきたく考えたからです。

★小沢仁志×杉作J太郎トークショー

俳優のみならず、映画監督としても活躍する小沢仁志さんと、漫画家・映画監督としてマルチな才能を遺憾なく発揮している杉作J太郎さんの異色コンビが、学生映画に対して愛情あふれるトークショーを展開します。

★「夕張市民と学生の交流について」

夕張国際学生映画祭2008では、当映画祭が夕張市民と学生の交流の場となる事を目指しております。今年度は以下の内容を実施いたします。

- ・NPO法人ゆうばり観光協会による交流パーティがホテルシュエパロ前で開催されます。
- ・夕張芸能協会、夕張太鼓保存会竜花の皆さんに夕張の伝統芸能を披露していただきます。
- ・学生監督は期間中夕張市内の民泊ボランティアの家庭に宿泊します。

★実行委員、審査員一覧

以下に当映画祭の実行委員、並びに審査員をご紹介します。

名誉顧問

高橋はるみ（北海道知事）

藤倉肇（夕張市長）

特別顧問

加森公人（加森観光株式会社代表取締役会長）

顧問

高村健次（NPO 法人ゆうばり観光協会理事長）

朝倉利光（北海学園大学学長）

実行委員長

高 秀蘭（映画プロデューサー）

実行委員

佐藤光明（株式会社エフエム北海道代表取締役社長）

西田吏利（リゾート（マウントレースイ）代表取締役社長）

武内英人（株式会社エフエム東京執行役員 エンターテイメント事業局長兼エンタテイメント事業部長代行兼 TOKYO FM 少年合唱団事務局事務局長）

福井陽一（株式会社 JM デジタルメディア代表取締役）

大和田廣樹（株式会社ブロードバンドタワー取締役会長）

プロデューサー

太田雅人（株式会社ゲッティ代表取締役）

審査委員長

掛尾良夫（キネマ旬報映画総合研究所所長）

国内学生映画 AWARD・国際学生映画 AWARD 審査員

高 秀蘭（映画プロデューサー）

小沢仁志（俳優・映画監督）

杉作 J 太郎（映画監督・漫画家）

太田雅人（夕張国際学生映画祭プロデューサー）

学生ショートフィルム AWARD 審査委員

高 秀蘭（映画プロデューサー）

草野竹史（環境 NGO ezorock 事務局長）

太田雅人（夕張国際学生映画祭プロデューサー）

学生 PHOTOAWARD 審査委員

星川淳（国際環境保護団体グリーンピース日本支部事務局長）

草野竹史（環境 NGO ezorock 事務局長）

斉藤照夫（財団法人 日本環境協会専務理事）

森剛史（夕張タイムス主筆）

★一般の問い合わせ先

東京事務局住所：〒107-0062 東京都港区南青山3丁目18番5号 NOB 南青山ビル3階

TEL：03-5410-0666

夕張事務局住所：〒068-0403 北海道夕張市本町3丁目52番地

TEL：0123-52-0666

または、公式ホームページまで。<http://www.yubarifilm.com/2008/>